

～安心して暮らせる地域社会をめざして～

KSK じんかれんニュース

NO.74 2024 年 8 月号



スマホの QR コードをかざすと
「じんかれんホームページ」を
読み取ることができます。

発行人 / 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 神奈川県横浜市港北区烏山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター横浜ホール 3 階

横浜市車椅子の会内

編集人 / NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

TEL 045-821-8796

FAX 045-821-8469

E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp

URL: <https://jinkaren.net/>

定価 50 円 (会員は会費に購読料が含まれています)

障害年金認定の基準見直し要請

2024.7.7 神奈川新聞

国が障害年金を支給するかどうかを決める認定基準の基本的な部分が半世紀以上変わっておらず、実態と乖離しているとして、日本弁護士連合会(日弁連)が見直しを求める意見書をまとめ、7月6日に厚生労働省に申し入れた。

障害年金は病気やケガで一定の障害のある人が受け取れる公的年金。重い順に 1～3 級に分かれている。国の政令では、例えば 2 級の状態を「長期にわたる安静を必要とする」「日常生活が著しい制限を受ける」などと規定。これに基づき認定基準の「基本的事項」では、2 級の具体例として「活動の範囲がおおむね家屋内に限られる」と記している。日弁連の意見書は、現実には 2 級受給者の多くが屋外でも活動していることを指摘。実態と大きく乖離しているほか、不支給判定の際の根拠に使われ、恣意的な運用につながっているとして基準の改定を求めた。

現行 障害基礎年金に該当する状態

障害基礎年金が支給される障害の状態に応じて、法令により、障害の程度が定められています。

障害の程度 1 級

他人の介助を受けなければ日常生活のことがほとんどできないほどの障害の状態です。身のまわりのことは、かろうじてできるものの、それ以上の活動はできない方(または行うことを制限されている方)、入院や在宅介護を必要とし、活動の範囲がベッドの周辺に限られるような方が、1 級に相当します。

障害の程度 2 級

必ずしも他人の助けを借りる必要はなくても、日常生活は極めて困難で、労働によって収入を得ることができないほどの障害です。例えば、家庭内で軽食をつくるなどの軽い活動はできても、それ以上重い活動はできない方(または行うことを制限されている方)、入院や在宅で、活動の範囲が病院内・家屋内に限られるような方が 2 級に相当します。

障害の程度 3 級

厚生年金保険の被保険者である間に、障害の原因となった病気やけがの初診日があること。(障害厚生年金) 国民基礎年金 3 級者への支給はありません。

企業・障害者がワンチームに！ 新しい障害者雇用の形

2024.7.7 NHK ETV バリバラ 「生きづらさを抱えるすべてのマイノリティ」にとっての“バリア”をなくす、当事者たちが発信する情報番組、みんなのためのバリアフリー・バラエティより

2024 年 4 月から、民間企業の障害者法定雇用率が 2.3%から 2.5%に引き上げられました。さらに、2026 年 7 月には 2.7%に引き上げられる予定です。これに伴い、常時雇用する従業員が 40 人以上の企業は、少なくとも 1 人の障害者を雇用する義務があります。

また、障害者雇用に関する支援策も強化され、特に短時間労働者の算定方法が変更されるなど、雇用促進のための様々な措置が取られています。

精神障害の方の離職率は一年間で 44%に上ると言われていますが、障害者の雇用を義務として捉えるのではなく、戦力として働いてもらい、業績を伸ばしている企業の紹介です。

◇ある水道管部品製造企業は従業員 59 人のうち、9 人の障害者を雇い、障害者の能力を引き出し、戦力化することで、ワンチームで業績を伸ばして継続的な黒字を実現している。中には勤続 20 年以上の者もいる。

障害者雇用は法律によって義務とされていることから、法令遵守のみを目的に雇用に取り組む企業もあることは事実ですが、障害者の特性を正しく理解し、本人の適性と能力をきちんと把握することで、貴重な戦力として障害者を迎え入れることは可能です。

企業トップは障害者が働きやすいように合理的配慮を実施し、業務の流れや部品などの置き場所をわかりやすく整理。健常者社員も作業しやすくなり、会社全体の労働生産性が向上。さらに、障害者が一生懸命働く姿を見て、健常者社員が刺激を受けて、より一層積極的に業務に当たり、意欲や作業効率が向上。個人の特性を生かしたスペシャリストを養成している。昼食は皆で一緒に食事をとることを大事にしている。雑談することによりコミュニケーションがとれる。

障害者雇用に積極的に取り組む大企業や、自治体の取り組みの紹介もあった。

◇ある大手通信情報会社の特例子会社（障害者の雇用機会を増やし、障害者が安定して就労できるように特別の配慮をし雇用する企業の子会社）は、コミュニケーションが苦手であったり、通勤が困難な障害者のため、在宅でのパソコンを使った仕事を積極的に取り入れている。オフィスには在宅勤務者を見守るコーディネーターを置き、仕事以外の相談にも乗っている。

◇岐阜市では、短時間でも働きたい、短時間でも働いて欲しいという、両者のマッチングにより、清掃業務など超短時間雇用（1 時間）を取り入れているという紹介があった。

現在 7 カ所の自治体で超短時間雇用を取り入れているとのこと。



企業トップが語る障害者雇用のメリット

トップの声 1

- ・障害者が戦力として活躍している。
- ・会社にとって、なくてはならない戦力となっている。
- ・仕事ぶりはゆっくりだが、丁寧なので、間違いが少なく信頼できる。
- ・地道な作業に真剣に取り組んでくれる。
- ・人手不足の中、戦力として会社を支えてくれている。

トップの声 2

- ・職場環境の改善につながった。
- ・障害者が働きやすくなるように行った環境整備が、障害のない社員の働きやすさにも繋がった。
- ・ひたむきな姿勢を周りの社員が応援することで、職場全体の雰囲気が悪くなった。
- ・まじめな勤務態度や仕事ぶりがほかの従業員へのよい刺激となっている。
- ・障害のある社員がいつも笑顔でいるため、職場が明るくなった。
- ・社員が気配りの心を持つようになった。
- ・上長のマネジメント能力が向上している。
- ・障害のない社員の業務負担が減り、働き方改革につながった。



トップの声 3

- ・業務効率化につながった。
- ・特定の作業をまかせることによって、ほかの社員が本来業務に専念でき、会社全体としてのパフォーマンスがあがっている。
- ・雑多だった作業プロセスをシンプルにする検討のきっかけになった。
- ・これまで職人化していた業務について、誰でもその業務ができるよう工夫するようになった。
- ・自身の仕事のやり方や姿勢を見直すきっかけとなった。

滝山病院での虐待事件その後

2024.6.29 NHK ETV 特集より

東京・八王子市にある精神科病院での虐待の実態を、患者の支援を続けてきた弁護士が告発し、明るみに出た「滝山病院事件」。警視庁が捜査に乗り出し、看護師ら 5 人が逮捕や書類送検された。

事件発覚後 71 人いた入院患者の内、39 人が転退院を望んだが、実際に転院できたのは 11 人。

その後新規入院患者を含め事件から 1 年 4 ヶ月、未だ 57 人が入院中。その後進まぬ転退院、4 割と高い死亡退院率、NHK は精神医療の現状と問題点を取り上げた。

死亡退院 さらなる闇

去年 2 月、東京八王子にある精神科・滝山病院で虐待が発覚。看護師らが逮捕され、東京都は改善命令を出した。事態は解決するかに見えた…。しかし、患者の転退院は思うように進まず、死亡退院率は高いまま。なぜなのか？ 独自取材から見えてきたのは、患者の引き受け手をめぐる精神科病院

や行政の現実、家族会の本音。さらに、滝山病院の「過剰医療」をめぐる不可解な実態だった。その内実に、内部資料や関係者の証言から迫った。

滝山病院は、精神疾患に加えて人工透析などの治療が必要な患者にも対応している、都内でも限られた病院で、半世紀にわたり地域の医療を担ってきました。

統合失調症があり、糖尿病で人工透析が必要だった弟について、両方の治療を受けられる病院は限られて、滝山病院は「院内で虐待が常態化している事実はない」と、兄はコメントしています。

病院は東京都からの改善命令を受け、外部の弁護士や医師などが入った虐待防止委員会を設置。さらに第三者委員会も立ち上げ、実態把握に向けた調査が動き出しています。

取材を進めると、虐待だけでなく病院の治療内容をめぐっても、疑念を訴える声が寄せられました。ただ、医療については、医師の自主自律が守られ、信頼に基づいて行われることが大前提となる中で、その内容自体を国や行政が指導や監督することが難しい現状があると言います。

これまでの取材で、複数の当事者、家族、そして関係者が、精神科病院の閉鎖性の高い環境の中では入院患者への虐待や人権侵害が起きやすく、被害者が声を上げることが難しい実態について語ってくれました。

あきらかになった精神障害者を取り巻く現状医療を受けながら、安心して暮らしていくために何が必要か考える！

【問題点】

- ◇興奮を抑制するための抗精神病薬の過剰投与（過鎮静）
- ◇重度の褥瘡（じょくそう・床ずれ）患者が多い。多臓器不全となる。⇒急性心筋梗塞
- ◇重度の精神疾患で透析を必要とする患者を受け入れる精神科病院が少ない。
- ◇退院に際して、家族の同意が得られない（金銭問題、家族との軋轢等）
- ◇病院側の改善計画に基づき、虐待行為の調査を行ってきた第三者委員会は医療に対しては介入できない。（滝山病院内で入院患者に対して実施された個々の医療行為の適切性については、その判断に医学的知見を要するため、当委員会としての判断は行っていない。）

第三者委員会の指摘事項より

虐待などが起きた要因として

- ◆医師や看護師らの倫理観の欠如。
それを助長させた院長をはじめとする経営陣の怠慢や無責任さなどを挙げている。
- ◆虐待が早期に発覚せず改善されなかった原因として、事前通知をしたうえで行政の検査の不備。
- ◆非常勤職員割合の高さを指摘。2019 年から 2023 年までの医師の非常勤率は 80%以上、看護師の非常勤率は概ね 90%以上であり、極めて高い水準となっている。⇒責任感の希薄
- ◆死亡退院率の高さ。

滝山病院における 2016 年から 2022 年までの各年の合計の死亡退院率は、2021 年を除き 60%以上であり、2019 年、2020 年及び 2022 年には 70%を超える高い水準で推移していた。このように、滝山病院における死亡退院率が高い原因としては、滝山病院が身体合併症を有する患者を受け入れている病院であり、滝山病院からの転院先が見つかりにくく入院期間が長期化し高齢の患者も多いことから、身体合併症の悪化により死亡する患者が多いと考えられる。

◆身体拘束について

身体拘束は、制限の程度が強く、また、二次的な身体的障害を生ぜしめる可能性もあるため、代替方法が見出されるまでの間のやむを得ない処置として行われる行動の制限であり、できる限り早期に他の方法に切り替えるよう努めなければならないものとする。

弁護士の見解

滝山病院事件は単なる精神科病院の患者虐待事件ではなく、医療・福祉行政が絡んだ構造的な欠陥が問題。死亡退院の状況が何も変わっていない。

重度の身体合併症の患者は、民間の単科精神科病院でたらい回しにされ、最終的に滝山病院に入り、劣悪な環境の中で生活し、多臓器不全、薬の過剰投与等で、急性心筋梗塞でなくなるケースが多い。

精神障害者への社会全体の理解を得る努力とともに、日本の医療の改善には、もっと国（公）が積極的に関わるべきだ。

身体合併症の患者を受け入れる公的病院を作り、民間病院も受け入れる体制を作るべきだ。



認知症の母親に寄り添いながら、 命や認知症を題材にした作品を作り続け、 認知症への理解を深めるため全国で講演活動にも取り組んでいる 詩人 藤川幸之助さんのインタビュー

2024 年 6 月 6 日 1:00~2:00

20 数年におよぶ認知症の母の壮絶な介護体験から、人々の心を打つ珠玉の詩を紡ぎ出してきた詩人の藤川幸之助氏。次第に記憶と言葉を失っていく母の命に寄り添い続けた藤川氏が語る、人と人が支え合う介護の本質。そして認知症という病が私たちに問いかける、人間が生きていることの尊さ――。

母は 60 歳でアルツハイマー型認知症を発症、84 歳で亡くなったが、その間、父親と共に介護をしてきた様々な体験の中で、多くのことを学んだ。特に父親には、頭の下がる思いです。

父は母が認知症を発症した時点で、「母さんの世話は一人で命がけでやる」「病気を抱えていながら必死に生きているんだ」と死ぬまで献身的な介護をした。そこで感じたのは、夫婦のきずな、人を思いやる気持ち、責任感。

ある時、毎日母と手をつないで散歩に行く父に恥ずかしくないのかと言ったら、「お母さんは自分の大切な人だ。自分が愛する人だ。腸や、心臓の病気があるようにお母さんは脳の病気だ。恥ずかしいことは全くない。父の死後、しばらくは母の介護をしてきたが、ある時、母のおむつを替えるべく、ドライブインの男子トイレで汚物を垂れ流す母親を怒鳴りつけたこともある。母に優しく出来なかった自分が悔しい。徘徊をしたときは、父との思い出の場所で見つかることもあった。亡き父の死を知らずに父に会いたい気持ちがあったのではないか。母の無念の気持ち、さびしい気持ち、口をきかない母の行動で多くの事を知った。はじめは、何に対しても、母の行動を怒鳴りつけ、イライラする自分がいたが、いつの間にか父と同様、人を思いやる気持ちを持てるようになり、人のために時間を使うのはどういう事かと思う自分がいた。人は存在するだけで大きな意義がある。

母の認知症はマイナスなことではある。が、母との関係性において、私は母を支えていたと思ってきたが、実は、私が母に支えられ育てられたのだと思っている。母はただそこに存在しているだけで私を育て支えてくれていた。生まれた時のような「存在そのもの」に返って、その返っていく姿で私を育ててくれていた。ですから、どんな命もそこに生きていだけで大きな意味を持つのです。人は皆、誰かを支え、誰かに支えられ、様々な関係性の中で生かされている。

生活のため、やむをえず老人ホームに入れたが、一週間に 1 度尋ねる中で、口をきけない母が、自分が帰ったあと 2 時間近く、扉の前にたたずんでいたとの事。

20 年以上にわたって認知症の母を介護し、その体験を詩に綴ってきた藤川幸之助さん。母と向き合う藤川さんの苦しみや悩みが生々しく記され読むものの心を深く揺さぶり、その中から生み出された珠玉の詩や気づきは、介護に苦しむ人々に希望と勇気を与えてくれます。

「夕日を見ると」

今日もここから あの夕日が見えました あの夕日を見ると いつも思うんです 今日母にやさしくできなかったと もっと母にやさしくすればよかったと
ウロウロするな！ ここに座っている！ 同じことばかり言うな！ もう黙ってろ！ 母さんが病気だって分かっちゃいるけど「おれの母さんだろう！ しっかりしろ！」と、つり上がった目で 何度も何度も母に言って母は驚いて 私を悲しそうに見つめて 私は言った後自分をずっと責め続けて この夕日を見ながら明日こそ母へやさしくしようと 毎日毎日そう思うけれど 毎日毎日このくり返し 母さんごめんなさい 母さんに苛立つぼくを許してください 母さんごめんなさい こんなぼくを許してください。

「扉」

認知症の母を老人ホームに入れた。認知症の老人たちの中で静かに座って私を見つめる母が 涙の向こう側にぼんやり見えた。私が帰ろうとすると何も分かるはずもない母が私の手をぎゅっとつかんだ。そしてどこまでもどこまでも私の後をついてきた。
私がホームから帰ってしまうと私が出ていった重い扉の前に母はぴったりとくっついてずっとその扉を見つめているんだと聞いた。それでも母を老人ホームに入れたまま私は帰る。母にとっては重い重い扉を私はひょいと開けてまた今日も帰る。

認知症の親を介護施設に預けたときの家族の切ない気持ち、情景が詩の中から浮かぶのと同時に、誰もがああるあると思える一コマです。

在宅では面倒見切れないから、施設にお願いする。そんなときに思う親への罪悪感や後悔。それと同時に、どこか介護から解放されるというホッとした思い。今度はその思いに対して、自責の念を抱いてしまう・・・



「ふるさとをください」上映報告

湘南あゆみ会では、6月23日(日)映画上映会を一般市民を対象に平塚市美術館ミュージアムホールで行ないました。題名は「ふるさとをください」。

この映画は精神障害者の就労施設建設に対する町の人々の反応と、施設で働く当事者同士の結婚問題をテーマに取り上げた作品で、10数年前に全国作業所連絡会が30周年を記念して作製し、全国で上映したのですが、このテーマは今でも通用するテーマであり、是非、多くの人々に観て考えていただきたいと上映しました。

上映は2回、午前と午後行い、午前の部では90の座席が殆ど埋まるほど。午後と合わせ計138人の入場者がありびっくりするやら嬉しいやら。

平塚市や市教育委員会の後援を取り、市の広報、タウンニュースに載せ、障害者団体・施設、市内の全公民館、市町会議員、看護学校など、思いつく様々なところにチラシを配りました。

お勤めの人にも来れるようにと日曜日を選んだのですが、残念な事に施設関係者、市町会議員等の入場者は殆どなく、50代~80代の入場者が69%で、中には90代の人も1人あり感激しました。感想には94%の人が“良かった”と答えてくださり、多くの方が好意的な感想文を残してくださいました。以下にその一部を紹介します。



- ・自分自身も偏見の目で見えていたことを反省しました。
- ・大変勉強になりました。心温まる内容で感動しました。
- ・障害者施設と住民の関係が変わっていく事に感動しました。
- ・クリニックの先生の話が分かりやすく為になった。
- ・製作した方々の暖かさを感じました。精神障害者の理解を広めるのは大変だと思いますが、一步一步進めていきたいと改めて思いました。
- ・精神障害が人ごとでないと思い、居場所がないことに気付きました。
- ・「あなた方のふるさとを少しだけ分けてください」の言葉にしびれました。
- ・こんな映画があることを知って感動しました。
- ・統合失調症の理解に繋がります。中学生・高校生に是非見せたい映画です。学校への働きかけをすべきです。
- ・私は事業所に通っていますが、精神障害者は悪い人など殆どいません。この映画は最後にそれを見せてくれました。皆が平和に暮らせる世の中を願います。

《最後に》この映画を上映して、ますます精神疾患への理解と、偏見のない温かな社会の実現をみんなが願っていることを強く感じました。全部の家族会で是非、上映して欲しい映画です。

湘南あゆみ会 谷田川



2024 年度 精神障害者家族相談員養成事業

NPO 法人じんかれん 研修会 のお知らせ



講演 オープンダイアログの可能性について

講師 鍼灸師・精神科医 森川すいめい氏

2018 年「オープンダイアログによるリカバリーをめざして」をテーマに、海老名での県民の集いで学びの場を持ちました。オープンダイアログが広がっていくために、家族として出来ることは何でしょうか。再び森川すいめい氏を招いてその可能性について考えたいと思います。

記

- ♥ 日時 2024 年 10 月 31 日 (木) 10 時 ~ 12 時
- ♥ 場所 かながわ県民センター304 会議室 横浜駅西口 徒歩 5 分 ヨドバシカメラそば
- ♥ 参加費 無料
- ♥ 定員 60 人 (要申込) 主催 NPO 法人じんかれん

お問合せ NPO 法人じんかれん (事務所火・木 10:00~16:00)
電話 045-821-8796 FAX 045-821-8469
Email jinkaren@forest.ocn.ne.jp

荒天等で中止にする場合があります。HP や事務所に
お問合わせください。

じんかれん家族相談のご案内

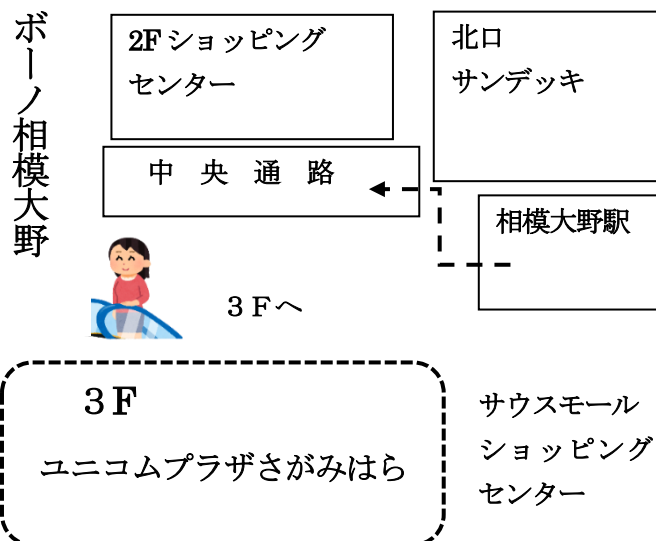
【家族電話相談】

◆研修を積んだ家族相談員による電話相談
毎週 水曜日 10 時~16 時 予約不要
※水曜日が祝日の場合でも大丈夫です。
☎ 045-821-8796
困っていること、悩んでいることなどお話し
下さい。

【面接相談】

◆精神保健福祉専門家による面接相談
毎月 1 回 第 3 火曜日 13 時~16 時 要予約
※第 3 火曜日が祝日の場合でも大丈夫です。
相談場所：相模原市南区 3-3-2
ポーノ相模大野サウスモール 3 階
「ユニコムプラザさがみはら」
ミーティングルーム
予約電話：火・木曜日 10 時~16 時
☎ 045-821-8796
※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。

『ユニコムプラザさがみはら』アクセス



小田急線「相模大野駅」中央改札口下車、北口サンデッキより、ポーノ相模大野方面サウスモールに直進、中央通路の途中に「ポーノ横丁」の看板があります。左折してエスカレーターで 3F へ・・・
駅 改札口より徒歩 3 分